

地域おこし協力隊という仕事



木下 知佳 (きのした ちか)

大阪府豊中市生まれ。2020年4月に北海道安平町に移住し、地域おこし協力隊のシティプロモーション推進員として活動を開始。2019年に国内旅行業務取扱管理者、2020年に北海道観光マスター検定の資格を取得。

大阪生まれ、大阪育ちの生粋の大阪人である私は、令和2年度より北海道胆振管内にある安平町で地域おこし協力隊として活動をスタート。まもなく1年半が経とうとしています。

地域おこし協力隊がどんなものなのか、応募するまで知らなかったという方が多い中、私は4年ほど前からある程度のことを知っていました。前職はフリーペーパーの発行やイベントの主催などを行っていた会社で勤務。そこで働いていた同僚が退職して地域おこし協力隊になるということで直接話を聞き、情報収集。どこかに移住して何か始めたいと思っていた私にはピッタリだけど、果たしてそんなにうまくいくものなのか…と自分の中での葛藤がこの頃から始まっていました。

いきなり新たな場所に行って、企業に就職し、仕事をするというのは年齢的にも厳しいと思っていたので、今までの経験で地域の役に立てることがあるのかなど興味本位で全国各地の地域おこし協力隊の募集要項をチェックし始めます。

金銭面で安心材料になったのは、様々な補助があるという点。給料をもらいながら家賃補助や活動経費と

して業務で必要な物品を購入できるということでした。市町村によって特色があるものもありましたが、基本的に給料と補助に関して大きな違いはなく、それによって選択肢が変わるということはありませんでした。

【安平町を選んだ理由】

地域おこし協力隊への興味が湧いていたと同時に、以前から考えていた北海道への移住を実現させたいという思いも強くなっていきました。以前から大阪から北海道への移住で一番不安だったのは仕事。地域おこし協力隊になることでその不安要素が消えるということで、前職を退職する意思を固め、北海道の地域おこし協力隊に絞って探し始めることに。

選択肢がたくさんある中で、自分のできることで仕事を探すべきなのか、やりたいことで探すべきなのか葛藤がありました。旅行の資格を取得したばかりだったので、それを仕事に活かしていけたらという思いがある中、やはりすぐにでも役に立てる仕事がいいと経験を活かせる仕事を選択します。

今までいろんな仕事を経験してきましたが、できれば前職に近いものはないかと探していたところ、安平町の「シティプロモーション推進員」というものが目にとまりました。主な任務は、「広報紙を主軸としたインナープロモーション」「インバウンドマーケティングの展開」。町が発行する広報紙の制作をメインとし、町内外に情報発信を行っていくというものです。前職では情報誌紙面の原稿作成、取材、校正やSNSでの情報発信を行っていた私にとってはまさにピッタリという内容でした。

当時は安平町について、平成30年北海道胆振東部地震で被害が大きかった場所という印象が強かったです。個人的に阪神淡路大震災や大阪北部地震という大きな地震を2度経験していたので、この経験も活かせるのではと考えたのと、移住先として重要だと考えていた新千歳空港へのアクセスが車で30分以内という好立地だったこともあり、応募を決意。そして、書類審査と面接を経て、無事に安平町の地域おこし協力隊として採用が決まり、応募から採用決定までわずか3か月ほどで人生が大きく変わりました。

【「シティプロモーション推進員」として行う業務】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、4月末に移住し、5月から地域おこし協力隊の就任となりました。

私が任命された「シティプロモーション推進員」は、先程少し触れましたが「町の広報紙を作成する」というのがメインの業務です。まずは、今までの広報紙を見直したり、町公式Facebookページで町民の方に安平町の魅力などを週3回発信することから始まりまし

た。現在は各課から入稿される原稿を、広報紙を作成するために使用しているソフトに入力していく作業を主に行っていますが、特集の企画を担当させてもらったり、表紙に私が撮影した写真を使ってもらうなど、徐々に仕事の幅が広がってきています。前職のフリーペーパーでの書き方の違いが多く、慣れるまでに時間がかかりましたが、現在では原稿作成の正確さや手際などが向上してきているように思います。

Facebookの投稿は、初年度は町民向けの記事がメインでしたが、今年度からは更新頻度を減らし、より深掘りした取材や見せ方の工夫を行った記事作成をしています。また、余剰の時間ができ、自己研鑽としてオンラインセミナーを受講する時間に当てるなど、自らのレベルアップに繋がることもできるようになりました。

町外在住の方でFacebookページを見てくれている



安平町広報紙「広報あびら」7月号

方に安平町に興味を持ってもらいたい、足を運んでもらいたい、移住してもらいたいという思いを記事として伝えることを目指しています。

日々発見があり、日々学ぶことができ、それが日々経験となっていて、毎日が充実しながらも楽しく仕事が

できているのが本当にありがたいです。

【これからの安平町との関わりについて】

地域おこし協力隊の活動期間は、最大3年間と定められています。私は現在2年目で、地域おこし協力隊として活動できるのはあと1年半ほど。ちょうど折り返し地点となり、任期終了後どこでどうしていくのかを考える時間が増えてきました。

元々、安平町に永住するという意思を持って移住してきたので、そのまま安平町民として町内で働きたいという思いのもと、今行っている広報紙の仕事を個人事業として請け負いたいと思っています。安平町では、地域おこし協力隊として活動しながら副業が認められているので、現在ライターやカメラマンの仕事を個人事業として行っています。任期終了後の活動資金の貯蓄、現在の広報紙作成業務を行ううえでライターやカメラマンの経験がプラスになること、今後広報紙の請け負いができなくなった場合の仕事の確保がその理由です。

最終的には旅行業の資格を取得し、町内で旅行会社を起業することを目指したいのですが、今の知識や経験ではまだまだ不十分だと思っています。移住後、安平町って道内でもまだまだ知られていないんだと実感することが多かったのも、まずはライターとして安平町やその周辺地域の魅力をしっかりと伝え、知ってもらうことが大事だと考えました。コロナ禍で海外だけでなく、国内旅行もしばらくは自由に行けない状況が続くと思われるので、その状況が好転した時に「安平町に行きたい！」「安平町に行ってみたい場所があるから立ち寄りたい！」と思ってもらえるような情報発信を行っていきたいです。

